

「ご存知ですか？
見る知る歩く『せんがわ地図』」

「仙川地図研究所」が発行している『見る知る歩くせんがわ地図』。

手のひらサイズの緑の表紙を仙川駅周辺の書店などで見かけて、気になった方も多いのではないのでしょうか。

緑の中に虫眼鏡が描かれた表紙を開くと、そこには紙面いっぱいカラフルな仙川の地図が現れます。仙川駅の駅名の由来となった仙川（せんかわ）、国分寺崖線とその周辺の緑地帯など歴史と自然が優しい色調の立体的なイラストで描かれています。

また裏面は「たのしい寄り道のすすめ」と題して仙川のお店の紹介と働く皆さん。それぞれの生き生きとした表情を見ながら、ついついコメントを読みこんでしまいます。



地図を製作した「仙川地図研究所」は、仙川や近所にお住まいの皆さんで構成する市民グループ。情報のあふれるこの時代に、「手元に残して何度でも開いてもらえる地図って何だろう」というところから地図作りをはじめたそうです。

ネット検索では出てこない、目で稼いだ情報、町を形作る人と人、会話の聞こえるような裏紙面。そのためにメンバーの皆さんが、ひとつひとつの道を歩いて、神社や寺院、石碑や石像、公園、畑や農産物直売所など、この町を形成するピースをひとつひとつ収集して地図をまとめたそうです。

「これまでたくさんの方が立ち止まり通り過ぎてきた場所のそれぞれに歴史があり、物語があります。仙川という場所を気に入って住んでいる人たち、気になって遊びに来る人たち。『見る知る歩くせんがわ地図』を媒体にたくさんの人へこの町の歴史や物語を届けることができたらうれしいです」と代表の小森葵さん。地図の編集から折り作業、封入とすべて「仙川地図研究所」の皆さんの手作りで作成されています。

仙川にお住まいの方にも、仙川が初めての方にも、町歩きのお伴にぴったりの地図になっています。ぜひ一度手に取ってみてくださいね。

価格は一部二百円。仙川駅周辺の書店を始めとして、仙川周辺の約三十件の店舗で販売しています。取扱い店情報など詳しくは「仙川地図研究所」ホームページで。

「仙川地図研究所」ホームページ
<http://sengawako.exblog.jp/>

市民サポーターに
お話を聞きました♪

今回ご紹介する市民サポーターは、サンデー・マティネ・コンサートを毎回支えてくださっている、黒田正司さんと木邨（きむら）眞敏さんです。黒田さんは初年度から、木邨さんはここ1年、ほぼ皆勤賞。お客さまからも馴染みの、頼れる存在です。

Q お二人は「ほぼ皆勤賞」と聞いていますが、毎回の参加は大変ではありませんか？

黒田： 他に行くところがないので(笑)。サンデー・マティネには、毎回平均して4〜5人のサポーターが参加しています。ここで市民サポーターのメンバーに会えるのが、一番の楽しみです。

木邨： 私は五十分ぐらいかけて自宅から歩いて劇場まで来ています。健康づくりも兼ねているんです。

Q 黒田さんご自身は、開演後、どのような仕事をされていますか？

黒田： 遅れていらっしゃるお客様の対応があります。開演後はたいてい私がお客様の対応を担当しています。終演後は早めに片づけをして、すぐにお鮎屋さんに行くのを日課にしているんですよ。

Q 「苦労はありますか？」

黒田： 特別な苦労はありませんが、多くのお客様がいらして下さって、全員が入場できない時もあります。そういった場合にロビーターのモニターでの鑑賞をお勧めすることもあ

るので、ですが、毎回皆さまにご納得いただけるのは自分の年齢のおかげかな。

Q (黒田さんは市民サポーター最年長です！) サンデー・マティネ・コンサートの魅力を教えてください。

木邨： 出演者には桐朋学園の若手音楽家の方が多いのですが、これから世界に羽ばたいていく方の演奏を聴くことができるというのが魅力です。すばらしい若手音楽家のご紹介的な要素もあります。

黒田： どうぞ皆さんいらしてください。劇場でお待ちしています。



(左) 黒田さん (右) 木邨さん



取材時にサンデー・マティネ・コンサートをお手伝いされていた市民サポーターの皆さん。左から、才目さん、竹本さん、木邨さん、黒田さん、須原さん、池澤さん。

サンデー・マティネ・コンサートは、月1〜2回、日曜日の午前十一時からお昼にかけて開催。先着順入場の無料コンサートです。どうぞお気軽にお越しください。